



〇〇中学校 第2学年

社 会 科 通 信

なんでやねん

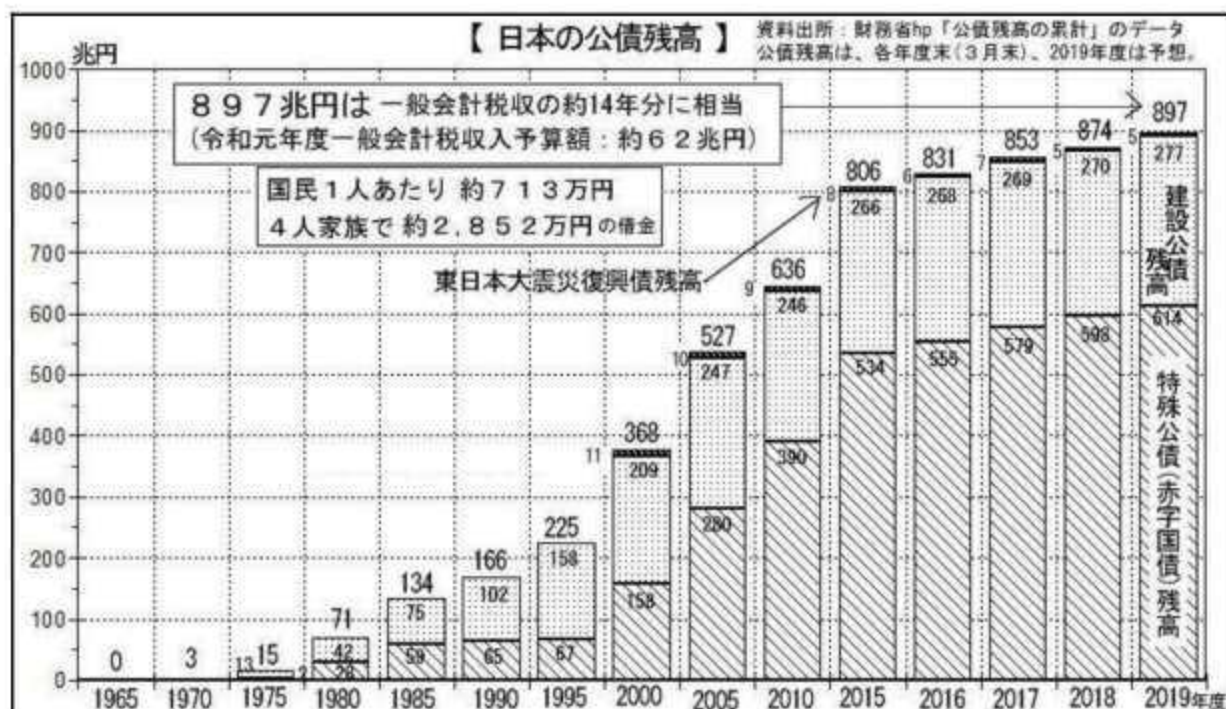
発行責任者 倉橋 忠



No.40

こくさいざんだか

国債残高をどうすればよいか グループで考えよう



国の税収は、2019年度(令和元年度)では約62兆円しかないのに、国債残高は、2019(令和元)年度末(2020年3月末)で897兆円になる見込みである。

財務省によると、現在の借金(公債残高=国債残高)は、国民一人当たり約713万円になり、1世帯(4人家族として計算)では2,852万円になる(2019年度末)。最近の3年間だけでも国民一人当たり約49万円増えている。このように、現代の日本の財政は、収入をはるかに超える支出をすることを繰り返している。

さらに、今開かれている通常国会に、国債を追加発行する予算案が提出される。

将来、この借金を、国民の一人ひとりが税金を納めて、返済しなければならないことになる。この「財政赤字の解消」が、君たちの将来に襲いかかってくる問題だ。

【グループで考える前に知っておきたい ミニ知識】

- ① ここまでの借金(国債)残高は、1万円札の厚みにするとどれ位になるのだろうか。1万円札は100万円で1cm。1億円で1mの厚さになる。1兆円の厚みは10km。では、1万円札を重ねたとなると、897兆円の厚みはどれくらいになるか計算してみよう。借金の多さが実感できるだろうか。ちなみに、日本の南北の長さ(最南端の沖ノ島から最北端の択捉島までの緯度の差)は2,787km。

- ② もし、このまま借金を増やし続けると、やがては公共サービスはなくなっても、税金だけを支払わなければならない時代がやってくることになるだろう。それは、まるで、江戸時代までの庶民のような暮らしが待っていることを意味する。江戸時代までは、庶民は税を負担しても、税が庶民のために使われることはほとんどなかった。当時の税の利益は、支配層(武士階級など)の生活費に使用された。けれども、この先の将来の時代は、今日の暮らしの借金を返済するだけで、だれの利益にもならない可能性すらでてくるのだ。

では、現在の私たちはどのように、この財政難を切り抜けるべきなのだろうか。江戸幕府の財政改革の時代よりも、もっと深刻な状況だ。互いの知恵を出して、将来に備えよう。主権者として、君たちは、もうすぐ政治の主人公にならないといけないのだから。

グループ学習の課題

- では、国債の残高を減らすために、どんな方法があるかグループで考えてみよう。まず、次のA案とB案の両方のメリットとデメリットを考えてみよう。そのうえで、A案かB案のどちらを支持するか、あるいは別の案を提案するかグループで話し合ってみよう。

A案：公債(国債)の発行をやめ、大幅な増税を行って、税収だけで歳入をまかなうべきだ。

B案：公債(国債)の発行をやめ、歳出を大幅に減らし、社会資本や公共サービスはすべて民間にまかせるべきだ。

【考えるためのヒント】

日本の政府は、これまで国債(公債)を発行し続けてきた。その結果、日本の借金は、2020年3月末で残高897兆円にふくらみ、赤字国債残高は614兆円である。建設公債だけでも、2020年3月末には巨額の残高(277兆円)になっている。

- ① 特殊公債(赤字国債)は、増え続けているが、何に使われているのだろうか？ 教科書(「用語解説編」No.22とNo.23)の資料から探ってみよう。国債の発行をやめた場合、それらの事業をどのようにするのがいいのだろうか？
- ② 建設国債で行われている公共事業は、本当に必要なものに限られているのだろうか？ 公共事業で、だれが利益を得ているのだろうか？ それらをやめた場合はどうなるのだろうか？ 教科書の資料から探ってみよう。
- ③ 一つだけの方法で解決できるほど単純な問題ではない。たくさんの方を集めて、解決方法を考えよう。